

## 第4回住友理工学生小論文アワード

文字数の参考：1行あたり40文字、1ページあたり1400文字です。

【タイトル】 課題を“生まない”会社の在り方 —すべての人が夢に挑戦できる社会を目指して—

【名前】 勝山由莉愛

【本文】

1 はじめに

「この先、どんな社会になったら幸せだろう」と考えたことはあるだろうか。自分の将来を思い描くことは誰もが経験するだろう。筆者は、自分の理想の将来の実現のために社会の在り方が大きく関わってくると考えている。筆者が思い描く幸せな社会とは、『すべての人が夢に挑戦できる社会』である。全員が夢を実現することは難しいかもしれない。しかし挑戦する権利は誰もが持っているものである。

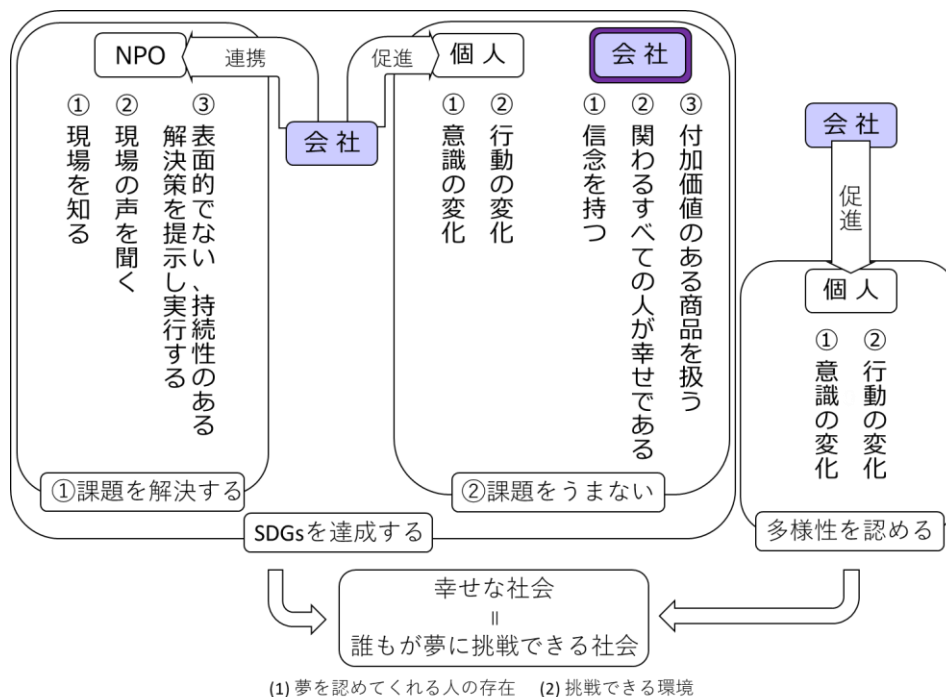


図1：筆者の考え

図1の説明をしながら、この文章の大まかな流れを説明しよう。夢に挑戦するにはまず、その『夢を認めてくれる人々の存在』が必要であり、『挑戦できる環境』が必要となってくる。だが、社会にはたくさんの課題がある。その課題を解決しない限り、『夢を認めてくれる人々の存在』と『挑戦できる環境』をすべての人に与えることはできない。筆者の関心は子どもの貧困にあるが、環境問題や格差問題など、挙げればきりがないだろう。SDGsで示されているものは、解決しなければならない課題とその具体的な目標である。『すべての人が夢に挑戦できる社会』を実現するには、多様性を認め、SDGsに示された目

文字数：10515文字

## 第4回住友理工学生小論文アワード

文字数の参考：1行あたり40文字、1ページあたり1400文字です。

標を達成していくことが大事であるとする。最初に、多様性を認めるには人々の意識や行動の変化が必要である。ここで会社ができることは人々の意識や行動を変えるサポートをすることである。次にSDGsを達成していくには『課題を解決すること』、『課題を生まないこと』が大切であると考えている。課題を解決するためにはNPOが主体となって取り組み、会社はNPOと連携していくことが大事であるとする。課題を生まないためには会社の在り方と、個人の意識が大事であると考えている。会社は、意識の変容を促進することができるが、自社で課題を生まない経営をすることが最も会社の担うべき役割であると筆者は考える。つまり、SDGs時代のビジネスのつくり方 — 「未来に選ばれる会社」とは『課題を生まない会社』であると考えている。第2章から詳しく説明していくが、この文章ではなるべく専門用語を使わず、誰もが読みやすい文章を心掛ける。

### 2 幸せな社会をつくるには — 理論 —

#### 2.1 課題を解決する

本題であるSDGsを達成するには先述したように『課題を解決すること』、『課題を生まないこと』が大事である。では、課題を解決するためにはどうすればよいのだろうか。筆者は『①現場を知る』、『②現場の人々のニーズを把握する』、『③表面的でない、持続性のある解決策を提示し実行する』の3つのステップがあると考えている。例えばSDGsの2.1の目標である「2030年までに、飢餓を撲滅し、すべての人々、特に貧困層及び幼児を含む脆弱な立場にある人々が一年中安全かつ栄養のある食糧を十分得られるようにする」\*<sup>1</sup>を達成するだけであれば対象者に安全かつ栄養のある食材を提供し続ければ話は早い。しかしこの解決策が有効でないことは言うまでもない。対象となる人がいる場所が紛争地域だったら食材を定期的に提供することはできるのだろうか。むしろ彼らは本当に食材の提供を望んでいるのだろうか。なにより、持続的に支援する資金はあるのだろうか。課題を解決する際は、根本から解決しなければ、一向に課題はなくなる。根本から解決するには①②③のステップを踏み、課題の根源に向き合うことが重要である。

ここで筆者が述べたいことは、課題を解決する組織として最も適しているのは会社ではない、ということだ。もちろん、会社に課題解決をすることができないわけではない。現に課題解決に取り組んでいる会社はたくさんある。しかし会社以上に課題解決に適している組織はNPOではないかと考える。彼らの目的は法律で定められた社会貢献に関する20分野に該当しなければならない。\*<sup>2</sup> 利益を出さなければ存続できない会社とは置かれてい

## 第4回住友理工学生小論文アワード

文字数の参考：1行あたり40文字、1ページあたり1400文字です。

る状況がまず違う。当然課題解決に割ける時間もNPOのほうが豊富だ。現在ブームになっている子ども食堂も、定年したおばあちゃんなどが取り組んでおり、仕事と両立するのは難しいことがわかる。根本から解決するために①②③のステップを踏むとなるとさらに時間がかかる。時間的、そして持続的に課題解決に専念して取り組めるNPOが、主体の組織として最も適していると言えるだろう。

では会社が課題解決のためにできることはどのようなことがあるだろうか。ひとつとして『連携する』ことであると考えられる。NPOが多数存在する現在でも課題は山積みだ。NPOだけの力で課題を解決することはできないことが明らかになってきているだろう。会社はNPOよりも専門技術や解決手段が豊富である。よって会社はNPOと連携し、技術提供や資金提供を行うという役割を担うことができると考えられる。

例えば株式会社兵左衛門では、折れた野球のバットから箸を作っている。この活動は売り上げの一部をバットの原料となる木を栽培するNPO法人に寄付している。<sup>\* 3</sup> Patagonia, Inc. は持株会社を通じ、売り上げの1%を寄付する「1% for the Planet」を設立している。この団体には現在約1200社が加盟し、約4000のNPOを世界で支援している。また、同じ志を持つ会社に投資するための内部基金「\$20 Million & Change」を設立し、廃棄される漁業用ネットからスケートボードを作っている会社や、環境、人、素材にやさしい、生地の洗浄などの方法を開発・販売する会社に投資している。<sup>\* 4</sup>

例で挙げたSDGsの2.1の目標を、根本から課題を解決することで達成するには①②をNPOが担当し、持ち帰った情報をもとに③を会社と連携して実行することができるのではないだろうか。対象地域が紛争地域であるならば、紛争から逃れる場所が第一に必要な。その上で困っている人々が持続的に安全で栄養のある食材を手に入れるには自給自足の知恵や、貨幣を得る手段を伝授するべきであると考えられる。つまり会社が課題を解決するには、主体となって課題解決する組織と連携することが必要である。

### 2.2 課題を生まない

SDGsを達成するには『課題を解決すること』、そして『課題を生まないこと』が大切だ。課題を生まないことができれば解決すべき課題もそもそも発生しない。地球上にいるすべての人が課題を生まなければよいのである。もちろん会社も課題を生まない社会を作らなければならない。会社の在り方は2.2.1から説明する。筆者が危惧するのは、会社だけが意識しても課題はなくならないということだ。そこで『人々の意識を変えること』が必要になる。例えば、筆者の暮らす長野で生活していればなくてはならない車。歩いていける距離なのに「楽だから」という理由で使用し、空気を汚していることはないだろうか。他にも、コンビニで必ずもらうレジ袋。ごみを増やしてはいないだろうか。「自分くらい…」

文字数：10515文字

## 第4回住友理工学生小論文アワード

文字数の参考：1行あたり40文字、1ページあたり1400文字です。

「ほかの人もやっているし…」 「私が意識しても解決にはつながらない…」 それを世界中のすべての人が思っていたら空気はどんどん汚れ、とんでもない量のレジ袋が捨てられることになる。ちょっと小腹がすいたら買ってしまうチョコレート。そのチョコレートを栽培している人々の生活を知っているだろうか。あなたがそのチョコレートを買うことで、ガーナの過酷な児童労働を助長していることに気づいているだろうか。\*<sup>5</sup> 人々の意識が変化しなければ課題はなくなる。そのために会社できることは意識変化を積極的に行われるような取り組みを行うことだ。言い換えると、人々の心に訴えかける経営を行うということである。この後説明する課題を生みださない会社の在り方を実行できれば自然に人の心に訴えかける経営を行うことができると筆者は考えている。

では本題に入ろう。SDGsを達成するには『課題を解決すること』、『課題を生まないこと』が大事であるが、会社が重きを置くべきであるのは『課題を生まないこと』である。理由は2.1で述べたように会社は課題を解決する組織として最も適しているとは言えないからだ。同時に会社が環境負荷や途上国の労働力の酷使などの課題を生み出しているからである。いくら課題を解決する組織があっても、課題が生み出され続ければ堂々巡りになってしまう。筆者はSDGs時代のビジネスのつくり方 — 「未来に選ばれる会社」を『課題を生み出さない会社』と定義する。課題を生み出さなければ、持続可能である社会が作り出されるだろう。貧困になる家庭はなくなり、子どもの貧困は姿を消す。環境破壊の心配もなくなり、格差も減少する。その結果『すべての人が夢に挑戦できる社会』が実現できるのではないだろうか。

具体的に課題を生み出さない会社に必要なことは3つあるという考えにたどり着いた。『①信念を持つこと』、『②関わる全ての人々が幸せであること』、『③唯一無二で付加価値のある商品を扱うこと』である。この3つにたどり着いた背景には、筆者の人生観が影響している。スティーブジョブズの言葉に、“Your time is limited, so you don’t waste it living someone else’s life. (略) Don’t let the noise of others’ opinions drown out your own inner voice.” とあるが、一度しかない自分の人生は自分が幸せであることが大事であると筆者は考えている。同時に周りの人にとっても一度しかない人生なのだから、人の邪魔をしてはいけない。つまり「人に迷惑をかけないで、自分のしたいように生きる」というのが筆者の大事にしている生き方である。具体的に言えば、「自分の意志を強く持ち、周りの人とともに、自分らしい人生を生きる」ということだ。これを未来に選ばれる会社の在り方と重ねると、①②③にたどり着くのである。それでは①②③を詳しく見ていこう。

### 2.2.1 信念を持つ

## 第4回住友理工学生小論文アワード

文字数の参考：1行あたり40文字、1ページあたり1400文字です。

信念を持つということは、会社でいうと経営理念にあたるものに確固たる信念があり、いかに経営に組み込まれているかということである。

ではまず、なぜ信念を持つことが必要であるのか。それは信念が判断基準になるからである。現在行っている事業の目的は、信念に則っているだろうか。これからやる新しいプロジェクトの内容に迷いがあるとき、立ち返ることのできる信念があれば行く先を見失うことはないだろう。

IKEUCHI ORGANIC 株式会社では「最大限の安全と、最小限の環境負荷」を基本理念に置き、経営を行っている。この会社が理念に行きついた背景には、ステークホルダーとの対話がたくさんあったという。一緒に会社を作り上げたステークホルダーの存在が、ぶれそうになったときに大きな支えになったそうだ。<sup>\*6</sup> 同様に理念を大事に経営を行っている会社が伊那食品工業である。社是である「いい会社を作りましょうーたくましくーそしてーやさしくー」に従って経営の選択をしている。トップの選択基準になるのはもちろん、社員にもこの考え方が浸透している。仕事に一生懸命取り組み、他人に対する思いやりの心をみんなが持っているのだ。伊那食品工業の塚越会長は、やさしさという軸を持っていたため、「仕入れ先に2社の候補があるがどちらにすればよいか」という相談に対し、「2社それぞれから適量を仕入れては」と返事をしたそうだ。そうすれば安さなどの目先の経済合理性だけで判断することなく、どちらの仕入れ先とも良好な関係を保つことができるからである。<sup>\*7</sup> サイボウズは「チームワークあふれる会社を創る」という経営理念のもとに、社員の提案に対し資金を投じている。例えば会議室にキッチンを設置したほか、「働くママ」のリアルな現実を伝えるために3分弱の動画に約1億円を投じた。その結果社員の士気が高まったそうだ。<sup>\*8</sup>

### 2.2.2 関わる全ての人（マルチステークホルダー）が幸せである

確固たる信念を持ち、具体的な経営の仕方が決定したら、その方法が関わる全ての人にとって幸せなものかどうか吟味する必要がある。マルチステークホルダーとは顧客に加え、サプライヤー、従業員、地域、自然環境などを指す。<sup>\*9</sup> また、同様の考え方として、「八方よし」というものがある。これはもともと近江商人の「三方よし」から派生した言葉で、社員、取引先・債権者、株主、顧客、地域（住民・地方自治体など）、社会（地球・環境など）、国（政府・国際機関など）、経営者、の9つの視点から見てすべてにとって良い経営ということである。また、八方よしの究極の姿は「ファン経済」と指摘されている。つまり、経営者、社員、取引先・債権者、株主は、売り上げを持っていく「コストの発生源」ではなく「付加価値を分配する対象」と考えることによって、同じ目標を共有するようにする。その結果、売り手はみなその会社を支えるファンになっていく

文字数：10515文字



#### 第4回住友理工学生小論文アワード

文字数の参考：1行あたり40文字、1ページあたり1400文字です。

だろう。顧客は、その会社の製品に魅力を感じることができる、つまり会社の信念に共感することができるのであればファンになっていくだろう。さらに地域、社会、国においても、世の中に調和し配慮した経営を行うことができれば、応援してくれるファンになっていくだろう。<sup>\* 1 0</sup>この際大切なことは、「すべて」にとって幸せであるということだ。一部分を優遇し、どこかにしわ寄せがいかないように注意を払わなければならない。

ここで、人々が意識を変えるために会社ができることについて説明する。前提として、人々は常にどの商品を買うか選択をしている。普段は違う会社の商品を買っていた人に自社の商品を選ばせることができれば、意識変化を起こしたと言えるのではなかろうか。この手法を使って、『多様性を認める』『課題を生まない』という方向に人々の意識を変化させることができるのである。

#### 2.2.3 唯一無二で付加価値のある商品を扱う

①②を実行できればおのずと③も実行できるかもしれない。信念を持ち、関わるもの・人に配慮した経営を行う際に扱う商品は当然価値のある自信作になってくるだろう。確固たる信念がないと、営利目的が先行し、低コストで大量生産が可能なものを売りさばくことになる。すると、安価であることに顧客は満足するかもしれないが、社員は残業に見舞われ、環境配慮は一切なく、課題を生む会社になってしまう。自社の製品に誇りを持ち、価値があると信じていることができれば見合った価格をつけてもその信念に共感した人々がファンになってくれるだろう。つまり人々の心に訴えかける商品を扱い、ファンの多い会社を目指せばよい。

よくあるのが「国産」「無添加」等を徹底したことにより、高額な商品でも買い手が多い商品である。例えば株式会社アールの正装白Tは、乳首が透けない白Tという特徴のほかにオーガニックコットンを100%使用しており、徹底的にメイドインジャパンを貫いた商品だ。この白Tは1枚1万3000円と高額にもかかわらず、販売開始から数分で売り切れてしまう。<sup>\* 1 1</sup> マザーハウスという会社では3万円台が中心のバッグを販売している。「途上国から世界に通用するブランドを作る」を経営理念に掲げ、価格競争の犠牲となりやすい途上国の人々を現地水準より高い給与を支払い、福利厚生を整備し、犠牲となりやすい人々の生活を保障している。マザーハウスでは社員の技術教育に力を入れているため、作られる製品の品質が良く、日本の多くのファンが同社のバッグを購入している。また、商品に自信があるからこそセールは行わない。セールを行えばファンに「安く買いたい」という心理を与えてしまうからである。<sup>\* 1 2</sup>

## 第4回住友理工学生小論文アワード

文字数の参考：1行あたり40文字、1ページあたり1400文字です。

### 2.3 事例

①②③を実践している会社をいくつか紹介しよう。ここに挙げた会社は未来に選ばれる会社であると筆者は考えている。

#### 2.3.1 IKEUCHI ORGANIC

前述したように、同社の経営理念は「最大限の安全と、最小限の環境負荷」である。この理念に従い、自然エネルギー100%の向上を運営している。具体的には、風力発電を行い、環境にやさしい排水処理を行っていることが特徴である。また、100%オーガニックコットンを使用し、母親が自分の命より大切に作る赤ちゃんに届ける安全なタオルとして注目を集めている。<sup>\* 6 \* 1 3</sup>

#### 2.3.2 サラダコスモ

サラダコスモの経営理念は「母が子を思う気持ち」である。代表取締役の中田氏には「社会に貢献できない企業は存続しない」という思いを持っている。ここから生まれた同社の特徴的な取り組みが「ちこり村」という施設である。ちこり村では、日本で初めて休耕地を利用したチコリの生産を行い、生産・加工過程では高齢者を雇用した。さらに地域農家の支援となる「バーバーズ・ダイニング」の運営や地域・南米日系農家の商品の販売を行っている。この取り組みはマルチステークホルダーに配慮した事業であり、同時に課題解決も行った称賛されるべき事例である。<sup>\* 1 4 \* 1 5</sup>

#### 2.3.3 Patagonia

パタゴニアは「最高の製品を作り、環境に与える不必要な悪影響を最小限に抑える。そして、ビジネスを手段として環境危機に警鐘を鳴らし、解決に向けて実行する」という経営理念を掲げている。まさに筆者が理想とする考え方である。前述したが、連携を大切にしている会社である。例えば会社とのコラボレーションで生分解可能で丈夫な新しいウエットスーツの素材の開発に成功した。<sup>\* 1 6</sup>

## 第4回住友理工学生小論文アワード

文字数の参考：1行あたり40文字、1ページあたり1400文字です。

### 2.3.4 ラッシュジャパン

ホームページには“100%VEGETARIAN” “ETHICAL BUYING” “FIGHTING ANIMAL TESTING” “FRESHEST COSMETIC ONLINE” “HANDMADE” “NAKED! PACKAGING”の文字がある。また、ラッシュは自分たちが成長すればするほど持続可能な社会になる、と明言している。これは自信のある経営をしなければ出てこない言葉であるだろう。環境、動物、顧客、仕入れ先に徹底的に配慮した会社だ。ラッシュもパタゴニア同様、連携することを大事にしている。生産者のコミュニティでパートナーシップを組み、仕入れ値の2%で持続可能な農業の立ち上げの支援をしている。さらに、人々の意識や行動を変えるために各店舗で様々なキャンペーンも行われている。<sup>17</sup><sup>18</sup>

### 2.4 人々の意識を変えるために

「多様性を認める社会」と「課題を生まない社会」をつくるためには人々の意識を変えなければならない。2.2.2でも少し触れたが、いくつか方法はある中で筆者が有効だと考えるものは2つである。1つ目は①②③を実行することである。信じる道に従って、関わる人への配慮を忘れず、自信のある商品を扱っていれば、そこに共感してくれる人は現れるだろう。最初は少数でも本当に良いものは伝染していく。ファンは会社の信念に共感してくれているので、課題を生まないことに理解を示してくれるだろう。2.2.3で挙げた会社はファンが会社の理念に共感したことを示す最もよい例であるだろう。2つ目は学ぶ場を提供することである。意識が変わらないのは意識を変える必要がないからである。実際、今を生きるのに意識を変える必要はないかもしれない。そこで未来のことに目を向け課題意識を持ってもらえるようなきっかけとなる場を提供することは、会社にできる意識改革の第一歩であると考えている。会社にとってもこの場を作ることによって、自社の製品の価値や信念を多くの人に知ってもらい、会社のイメージアップやファンの増加につながるだろう。

## 3. 幸せな社会をつくるには — 具体案 —

ここからは筆者が起業家となり未来に選ばれる会社を設立すると仮定して話を進めたい。第2章でまとめた未来に選ばれる会社を筆者なりに具現化すると次のようになる。



## 第4回住友理工学生小論文アワード

文字数の参考：1行あたり40文字、1ページあたり1400文字です。

### 3.1 信念

筆者は子どもの貧困に興味を持っている。ここでいう子どもの貧困とは経済的な貧困だけでなく精神的な貧困も含んでいる。小学生のころから子どもへの興味は持っていた。同じ歳くらいの子がアフリカでは飢餓に苦しんでおり、同時に日本では大量の食品が廃棄されている事実を知ったときは思わず涙がこぼれたことを覚えている。子どもの貧困にかかわる仕事がしたいと思ったきっかけは両親の離婚だった。経済的に困窮していたわけではないが幸せだった家庭が一気に崩れ、人を信じられなくなったこともあった。母親との接し方がわからなくなり、常にどこかで孤独を感じていた中高生時代だった。その経験から、自分以上に苦しむ子どもがいることを知り、苦しんでいる子どもにも夢に挑戦することが当たり前であると知ってほしいと考えている。筆者の信念は「すべての子どもが夢に挑戦することができる環境をつくる」ことである。具体的には幼児期に形成される非認知能力（思いやり、自主性、自己肯定感など）を高めることが大前提となる。<sup>\* 1 9</sup> 非認知能力が高いと、自分の意思をしっかりと持つことができ、自己肯定感も向上する。その結果、自然に夢に挑戦することができる人になっていくのだ。また、大きな問題である貧困の連鎖も非認知能力によって打ち切ることができるという研究結果も出ている。<sup>\* 2 0</sup> 生まれた家や育った環境に関わらず、その未来を実現できるように環境を整えたいと考えている。

### 3.2 唯一無二の価値のある商品を扱う

順番が前後するが、先に扱う商品について説明する。子どもの貧困というものは原因が多岐に渡り、解決策をシステム化することはできない。弊社では「家庭にあった夢の与え方」を商品としていきたい。具体的な内容は実例がないので説明できないことを了承願いたい。今思い浮かぶものは以下の通りだ。例えば親に正式な働き口がなく困窮していた場合、弊社で働き子どもへの夢の与え方を学び、社員として働いて我が子に夢を与えてもらう。我が子以外の子どもにも夢を与える仕事をしてもらえば給料が入る仕組みだ。机上の空論だと思う方は4年後にまた筆者の話を聞いてほしい。これから大学生活を通じて学んでいきたいところである。家庭に対応した夢の与え方と同時に大人数を対象にしたプログラムも展開したいと考えている。大人が社会を変えていくうえでイノベーションが大事であるという考え方がある。さらにイノベーションを生むには多様性を持った人々が対話をしなければならない。<sup>\* 2 1</sup> 同様の考え方をし、子どもにも「場」が必要なのではないかと考えている。多様な人と関わり合うことで非認知能力が高まることも研究結果がある。

文字数：10515文字

## 第4回住友理工学生小論文アワード

文字数の参考：1行あたり40文字、1ページあたり1400文字です。

\*<sup>19</sup> また、子ども哲学という「なんで？」を追求していくことも思考力を高めることにつながるという。\*<sup>22</sup> 具体的には子どもが集まり仲間と同じ時間を過ごしながら様々な経験ができるキャンプや、子どもの拠り所となるスペースの提供・イベントの開催を行いたいと考えている。場所自体は無料で使うことができ、地域の方との交流や、安心できるスペースになればよいと考えている。プログラム自体は有料のものも無料のものも含め、NPOや行政、幼児教育の専門家、学校の先生などと連携しながら考えていきたい。

### 3.3 関わる全ての人幸せである

子どもの課題を考える際、切り離せない問題は親である。子どもの問題を解決するためには、親の課題も同時に解決しなければならない。したがって包括的に家庭を支える事業が必要になってくるだろう。筆者の暮らす長野県では、地域のお年寄りが「デイサービスの読み聞かせはつまらない。いろんな人と話すほうが楽しい。」と話していた。どうしてもお年寄りはサービスを受けるという受動的になってしまいがちであることを知った。そこで、子どもとお年寄りと一緒に料理をしたり、話をしたり、ゲームをすることができれば、2つの問題を一気に解決できる。休日には親子とお年寄りの交流をすることも可能であるだろう。できるだけ多くの人を巻き込み、人のつながりを大事にしながら多くの問題を融合して解決に持っていくことができれば理想的である。ここに関しては現場を訪れ、実際に当事者の人々と対話をしなければ見えてこないものもたくさんある。これも今後に期待してもらいたい。

## 4. まとめ

筆者は、未来に選ばれる会社を『課題を生まない会社』と定義した。そのためには、ひとことと言うと『関わる人・ものに迷惑をかけず、やりたいことを貫く』会社であることが重要である。筆者が考える幸せな社会とは『すべての人が夢に挑戦できる社会』である。このような社会が実現すれば、一人一人が自分の幸せを追求することができるからだ。この社会を実現するには多様性を認め、SDGsの達成することが重要となってくる。SDGsを達成するには『課題を解決すること』、『課題を生まないことが』必要だ。会社に行き止めることは課題を生まないために、『信念を持ち』、『関わるすべてを幸せにする』経営を、『唯一無二の付加価値を持った商品』を扱いながら、実行することである。この結果、会社のファンが増え、人々の意識の変化も起こってくるだろう。また、人々の意識を

文字数：10515文字

## 第4回住友理工学生小論文アワード

文字数の参考：1行あたり40文字、1ページあたり1400文字です。

「課題を生まないようにしよう」「多様性を認めよう」と変化させるきっかけとなる場をつくることも大切である。そのような場を作ることが会社として当たり前になれば、社会の風潮も変化していくだろう。

後半の筆者が起業すると仮定した話はあくまでも仮定である。確固たる信念は持っているつもりであるが、経営をどう行うか、どんな商品を扱うかは、これから大学4年間で学び、ステークホルダーとの対話を通して実際の事業内容を確認していきたいと考えている。

未来の社会が幸せな社会になるよう、まずは一人一人が意識してくれたら幸いだ。課題意識のある会社が増え、課題のない幸せな社会が早く実現してほしいと切に思う。そして、筆者の思い描く会社を設立し、幸せな社会に貢献したい。

### 【参考文献】

\*<sup>1</sup> [www.csr-today.biz/sdgs/17goals#goal02](http://www.csr-today.biz/sdgs/17goals#goal02)

\*<sup>2</sup> <http://npo.ii-support.jp/npo/page004.html>

\*<sup>3</sup> 大室悦賀著「サステイナブル・カンパニー入門」 p102

\*<sup>4</sup> 大室悦賀著「サステイナブル・カンパニー入門」 p116

\*<sup>5</sup> <http://acejapanorg/choco/childlabour>

\*<sup>6</sup> 大室悦賀著「サステイナブル・カンパニー入門」 p93-99

\*<sup>7</sup> 塚越寛著「「いい会社」ってどんな会社ですか？ 社員の幸せについて語り合おう」 p68-71

\*<sup>8</sup> 塚越寛著「「いい会社」ってどんな会社ですか？ 社員の幸せについて語り合おう」 p48

\*<sup>9</sup> 大室悦賀著「サステイナブル・カンパニー入門」 p180

\*<sup>10</sup> 新井和宏「持続可能な資本主義」

\*<sup>11</sup> <http://seisoshirot.com/>

\*<sup>12</sup> 新井和宏「持続可能な資本主義」 p131-135

\*<sup>13</sup> <https://www.ikeuchi.org/about-us/concept/>

\*<sup>14</sup> 大室悦賀著「サステイナブル・カンパニー入門」 p108-110

\*<sup>15</sup> <http://www.saladcosmo.co.jp/>

\*<sup>16</sup> 大室悦賀著「サステイナブル・カンパニー入門」 p114-116

#### 第4回住友理工学生小論文アワード

文字数の参考：1行あたり40文字、1ページあたり1400文字です。

- \* <sup>1</sup> <sup>7</sup> 大室悦賀著「サステイナブル・カンパニー入門」 p121-124
- \* <sup>1</sup> <sup>8</sup> <https://jn.lush.com/>
- \* <sup>1</sup> <sup>9</sup> ジェームズ・J・ヘックマン著「幼児教育の経済学」 p17-39
- \* <sup>2</sup> <sup>0</sup> <http://www.nhk.or.jp/ourfuture/sp/vol9/>
- \* <sup>2</sup> <sup>1</sup> 大室悦賀著「サステイナブル・カンパニー入門」 p28, 29
- \* <sup>2</sup> <sup>2</sup> <http://ardacoda.com>